

事務事業事後評価表

〈基本情報〉

事務事業の名称 【1】	レディース検診事業(乳がん・子宮頸がん)		所管課【2】	保健予防課
			評価者(担当者)	清田 朝子
総合計画での位置付け 【3】	基本目標(章)	⑤いきいきと暮らせる福祉のまちづくり		重点 施策【4】
	主要施策(節)	(1)保健医療体制の充実		
	施策区分	(1)健康づくりの推進		<input type="checkbox"/> 該当
実施の根拠 (複数回答可) 【5】	(市民意識調査結果) <input type="checkbox"/> 【A】重点改善領域 <input checked="" type="checkbox"/> 【B】重点維持領域 <input type="checkbox"/> 【C】観察領域 <input type="checkbox"/> 【D】維持領域			
	<input type="checkbox"/> 市長公約 <input type="checkbox"/> 新市建設計画【年度予定 : 金額 千円】 <input checked="" type="checkbox"/> 法令、県・市条例等【健康増進法、がん対策基本法】 <input type="checkbox"/> その他の計画【】 <input type="checkbox"/> 該当なし			
事業区分 【6】	<input checked="" type="checkbox"/> ソフト事業 <input type="checkbox"/> 義務的的事业 <input type="checkbox"/> 建設・整備事業 <input type="checkbox"/> 施設の維持管理事業 <input type="checkbox"/> 内部管理事務 <input type="checkbox"/> 計画等の策定事務			
会計区分 【7】	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別・企業会計【】 款 4 項 1 目 2 細目 12			

〈事務事業の目的〉

事務事業の実施背景(どのような問題又はニーズがあるのか) 【8】	女性のがんは、近年若い世代の罹患率、死亡率が上昇しているが、受診率が低く、がんによる死亡者を減少させるためには、早期発見・早期治療が不可欠である。
対象(誰、何に対して) 【9】	乳がん:40歳の女性、子宮頸がん:20歳の女性
意図(どのような状態にしたいのか) 【10】	無料クーポン券を活用することで受診率を向上させ、乳がんと子宮頸がんの早期発見・早期治療を図り、がんで亡くなる人の割合を減らす。

〈事務事業の概要〉

事業期間 【11】	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 【 年度】 【 H21 年度から】 【 年度～ 年度まで】		
事業主体 【12】	<input type="checkbox"/> 国 <input type="checkbox"/> 県 <input checked="" type="checkbox"/> 市 <input type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> その他【】		
実施方法 【13】	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 補助金等交付 <input type="checkbox"/> その他【】		
事務事業の具体的内容 【14】	対象者にクーポン券と検診手帳を交付して女性特有のがん(子宮頸がん・乳がん)検診の案内を行う。集団健診や委託医療機関(乳がん、子宮頸がんとも3医療機関に委託)で無料で受診する。	⇒	事務事業を構成する細事業【15】 ① レディース検診事業(乳がん・子宮頸がん) ② ③ ④ ⑤

〈事務事業実施に係るコスト〉

			H24年度決算	H25年度決算	H26年度決算	H27年度予算	全体計画	
投入コスト	事業費(千円)	国庫支出金	50%	4,605	2,558	1,032	1,217	
		県支出金	%					
		起債	%					
		受益者負担						
		その他						
		一般財源		3,613	5,700	1,032	1,218	
	【16】 小計		8,218	8,258	2,064	2,435	0	
	[再掲]臨時・非常勤職員人件費(千円)		290	127	307	317		
職人 員 の 費	職員人工数		0.25	0.25	0.21	0.21		
	職員の年間平均給与額(千円)		5,610	5,424	5,424	5,424		
	【17】 小計		1,403	1,356	1,139	1,139		
合計			9,621	9,614	3,203	3,574		

《事務事業の手段と活動指標》【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H24実績	H25実績	H26実績	H27計画
① レディース検診事業(乳がん・子宮頸がん)	対象者に無料クーポン券を送付し、検診費用を負担する。	交付人数(H26年度から対象者は20歳のみ)	人	4,012	4,041	750	688
②							
③							
④							
⑤							

《事務事業の成果》【19】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H24目標	H25目標	H26目標	H27目標
			H24実績	H25実績	H26実績	
1 レディース検診受診率(子宮頸がん)	クーポン対象者の受診率=受診者÷クーポン対象者()はH26と比較	%	50	50	50	50
			21.4(13.5)	22.0(12.6)	17.6	
2 レディース検診受診率(乳がん)	クーポン対象者の受診率=受診者÷クーポン対象者()はH26と比較	%	50	50	50	50
			25.4(26.4)	25.9(29.4)	35.4	

《事務事業の評価》

評価項目	評価の視点	評価	評価の説明
妥当性 (判定) A	実施主体の妥当性【20】 市が実施すべき事業か。また、民間やNPO等他の団体では実施できない事業か。	<input type="checkbox"/> 問題あり <input checked="" type="checkbox"/> 問題なし	子宮頸がん・乳がんの早期発見の機会が失われることで、早期治療ができなくなる。
	目的の妥当性【21】 税金を使って達成する目的か。また、市民ニーズの低下により役割が薄れていないか。	<input type="checkbox"/> 問題あり <input checked="" type="checkbox"/> 問題なし	
	廃止・休止の影響【22】 事業を止めた場合、受益者に不利益が生じる等の影響があるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 影響あり <input type="checkbox"/> 影響なし	
有効性 (判定) C	目標の達成度【23】 成果指標の目標値は達成できたか。	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成	受診勧奨のための効果的なりーフレット作成や封筒の透明化などの工夫をする。受診期間の延長をすることで受診率の向上を目指す。
	成果向上の余地【24】 成果がもっと上がる余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地あり <input type="checkbox"/> 余地なし	
	上位施策への貢献度【25】 上位施策の目的達成に貢献しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> 十分 <input type="checkbox"/> 不十分	
効率性 (判定) A	コスト低減の余地【26】 コストの低減について、これ以上検討の余地はないか。	<input type="checkbox"/> 余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 余地なし	
	民間の活用の余地【27】 民間委託など民間活力の活用について、これ以上検討の余地はないか。	<input type="checkbox"/> 余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 余地なし	
	執行方法改善の余地【28】 事務事業の執行上、簡素化又は改善できるプロセスはないか。	<input type="checkbox"/> 余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 余地なし	
	事業統合の余地【29】 類似する他の事務事業との統合について、これ以上検討の余地はないか。	<input type="checkbox"/> 余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 余地なし	
公平性	受益者負担の余地【30】 受益者負担について、これ以上検討の余地はないか。また、対象、負担額等は適切か。	<input type="checkbox"/> 余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 余地なし	

《今後の方向性と改善》

今後の方向性【31】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小を検討 <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討 <input checked="" type="checkbox"/> 細事業の効率化【 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 民間活用 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> 廃止 】
判断理由及び見直し・改善の具体的内容	がん健診を受ける機会の少ない若い女性には、無料クーポンの配布により自分のからだについて考えるいい機会になり、健康意識の啓発にもなると思われるため今後も継続していくことが必要である。検診に対し対象者の関心が増すよう、リーフレットの作成や封筒の透明化を図る。
昨年からの見直し・改善状況【32】	子宮頸がん対象者が20歳と若く、検診の必要性についての認識が低いため、クーポン発送時に検診の必要性和検診のイメージが湧くようなチラシを同封した。また、クーポンが送られてきたことが、本人、家族にもわかるように封筒に「がん検診無料クーポンのお知らせです」と明記した。また、受診率向上のために検診期間を6か月から8か月に延長し、検診を受けやすい体制にして、更に検診期間の間で未受診者勧奨を行う予定である。

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見【33】	受診率を改善させる為の方策を図りながら、当分の間継続すべき事業である。	評価責任者 中野幸子
------------------	-------------------------------------	---------------